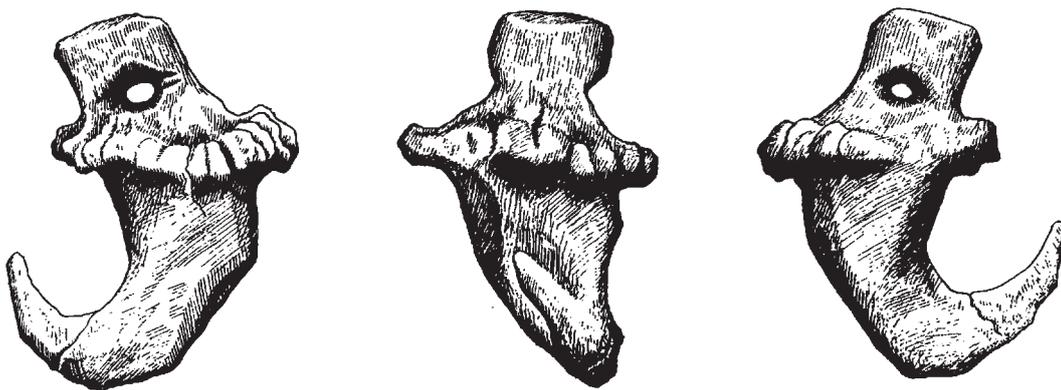


シンポジウム

縄文/ 弥生の骨角製装身具類の展開とその意義

骨角製装身具類からみえる社会変遷



動物性素材を用いた装身具・儀器には、多種多様な器種がある。
それぞれ当時の社会の中で、どのような役割を担っていたのだろうか。
縄文/ 弥生と、意味するところを多方面から考えていきます。

科学研究費 研究基盤 (C)

「骨角製装身具類の包括的検討からみた縄文から弥生への時代変遷の解明」

(研究課題 20K01080・研究代表者 川添和暁)

日時 2023年11月5日(日) 午前10時～午後5時

会場 明治大学 グローバルホール

共催 明治大学資源利用史研究クラスター

CLUSTER FOR HISTORY OF RESOURCE UTILIZATION

シンポジウム

縄文/弥生の骨角製装身具類の展開とその意義

骨角製装身具類からみえる社会変遷

10時00分～

開催挨拶

I 10時10分～11時00分

川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター / 明治大学資源利用史研究クラスター）

趣旨説明・「研究概要および鹿角製装身具類の展開とその意義」

II 11時00分～11時30分

阿部芳郎（明治大学文学部 / 同資源利用史研究クラスター長）

「ベンケイ貝製貝輪の大量生産遺跡の出現背景」

III 11時30分～12時00分

中沢道彦（長野県 / 明治大学資源利用史研究クラスター）

「装身具・儀器となったサメ類とその背景」

< 昼食・休憩 >

IV 13時00分～13時30分

樋泉岳二（明治大学資源利用史研究クラスター）

「装身具に使用された動物性素材の特徴」

V 13時30分～14時00分

栗島義明（明治大学黒耀石研究センター / 同資源利用史研究クラスター）

「石製装身具類の展開とその意義」

VI 14時00分～14時30分

山田康弘（東京都立大学大学院人文科学研究科）

「骨角製装身具類を着装・伴出した人骨の埋葬属性」

VII 14時30分～15時00分

米田穰・佐野良彦（東京大学総合研究博物館）

「装身具を装着した縄文人の食生活は特殊だったのか？」

< 休憩 >

VIII 15時30分～16時45分 総合討論

閉会の挨拶（17時終了予定）